複合福祉施設の色彩計画

「ベルタウン」の色彩設計

Color Design for“Bell-town”, Complex Welfare Facilities

CD 研究所
第2部
田辺千尋
Chihiro
Tanabe

要　旨

大阪府堺市に新設される保健福祉施設「ベルタウン」の色彩設計を実施した。「ベルタウン」は特別養護老人ホーム「ベルライブ」と介護老人保健施設「ベルアルト」、さらに0歳児から5歳児までを保育する「ベルキンダー」の3施設からなる7階建の複合型保健福祉施設である。高齢者施設と保育園が併設されることで、入居している高齢者へ子供たちの遊ぶ声が届き、良い刺激となり、高齢者同士の活発な交流が促されるように部屋の配置が配慮されている。

色彩計画では複合施設として高齢者施設と保育園それぞれに特徴を持たせつつ、全体的には統一感のある色彩空間を目指して計画した。

1. はじめに

現在の高齢者施設の色彩や素材を含めた全体的な傾向として「家庭のような雰囲気を重視している」という点が挙げられる。床や壁、手すりなど直接手に触れる部分などに木の素材が多く使われ、自然のぬくもりが暖かく落ち着いたイメージを与え、癒しの効果を演出する。しかしその反面、どの部屋も同じようなイメージになってしまい、メリハリに欠けるという点も否定出来ない。その結果、自分の居場所が判りにくくなり、精神的なストレスや余計な体力の消耗を引き起こすと考えられる。

そこで、ベルタウンでは素材と色彩を効果的にコーディネートすることで、家庭の雰囲気を感じさせつつ福祉施設としての機能が十分発揮出来る、快適で判りやすい色彩計画を行った。

2. 色彩設計を行うための留意ポイント

建築物の色彩を考えるにあたっては、最適な配色デザインとなるように様々な視点から検討を行っていく必要がある。我々は①対象物件の周辺環境との調和（環境特性）、②対象物件の見られ方や見られる頻度（視点場特性）、③対象物件地域の歴史や風土（地域特性）、④対象物件の用途や規模（機能特性）、⑤その地域に課せられている景観条例などによる色彩ガイドライン等を重要な要素と考えている。その他、その建物や施設に込められた設計コンセプトとの整合性や、使用される素材特性を活かすことなども重要な要素と考え配慮されなければならない。

外装に関しては①～⑤すべてに配慮が必要であるが、内装に関しては特に③と④が重要であり、その施設を利用する人の特性や建物の用途への配慮や素材特性を把握することが必要となる。以下に本物件の色彩設計を行うにあたり、外装・内装それぞれに求められる色彩についての調査・結果および配色の主要なポイントを述べる。

2.1 外装について

2.1.1 環境調査

まず周辺環境の調査を行い、色彩および自然や交通などの環境特性を把握した。建設予定地は戸建てを中心とした住宅地区にあり、その他小型店舗や事務所、小学校、病院、工場などが点在している。敷地周りの道路が狭いため住宅に近接して建つことになりかなり圧迫感があるが、エントランス側に関しては道路を拡幅することである程度の広さが得られている。

住宅に関しては、古くからある住宅と新興の建売り住宅とが混在しており、外観の見栄えに極端な差が感じられる。新しい住宅は外装にレンガタイルを用いているが、色彩としては新旧共にオフホワイトやブラウン系の濃淡で配色されているため統一感のある区画となっている。

また、この地域は仁徳天皇陵を始めとする古墳群など歴史的な資源に恵まれており、歴史や文化を生かした良好な住環境と多様性のある都市住宅地づくりが進められている。

2.1.2 設計コンセプト

設計事務所より提示されたコンセプトは以下の通りである。

○外装はアンティークなイメージを感じさせるような渋く落ち着いた配色であること。

○品格を持たせること。

2.1.3 外装色の方向性と配色イメージ

以上の点から策定した外装色の方向性は以下の通りである。

①立地条件や規模から受けることが予想される威圧感を配色イメージで軽減させる。

②住宅地の中にあり、多くの人の目に触れることを考慮し、親しみやすさ・優しさ・落ち着きなど安心感の感じられる配色イメージとする。

③この地域の目指す歴史性や文化性の感じられる伝統的な配色イメージとする。

多くの人の目に触れることや施設の機能を考慮し、さらに周辺の住宅がブラウン系の濃淡で配色されている統一感のある地区であることや外装に木質系素材を使用することなどから、低彩度のブラウン色の濃淡とオフホワイト色で配色することで木部との調和を図り、落ち着いた品格のあるイメージとする。ブラウン色は焼きむらのあるレンガタイルを用い、オフホワイトは塗装とすることで、素材の違いにより表情豊かな外装となった。**写真1、2**

写真1　東側外観

写真2　エントランス外観

2.2 内装について

大型の病院のように階数が多く、どの階にも似たような部屋がある場合には、各階ごとにテーマカラーを設定し、判りやすくすることが効果的でありデザイン性にも優れている。本施設は7階建と階数が多く、3階から7階までの高齢者施設においてはどの階も同じタイプの部屋と間取りになっているため、階ごとのテーマカラーを設定した。また、各階においてもユニットごとに配色デザインを変えて自分の部屋を認識しやすくした。高齢者の視覚の変化にともなう視認性への配慮や活発な交流の出来る雰囲気を意識し、さらに外装同様に上品なイメージの感じられる内装空間を検討した。

内装は色彩だけではなく、その空間を構成するすべての素材や形状・デザインを含めて考えられることが重要であり、それにより使いやすく安全性の高い施設を作り出すことが出来る。以下に具体的な色彩設計のポイントを述べる。

〔色彩の心理効果の活用〕

色彩が人の心理面に与えるイメージや効果を活用することで、大きさから受ける威圧感を軽減したり落ち着いた雰囲気を演出するなど、色彩には様々な効果が期待出来る。例えば、緻密な作業を行う場には気持ちを冷静に保てる色彩を、人々の楽しい交流を促す場にはあたたかい色彩をというように、それぞれの機能を十分把握理解し、色彩の持つ力を最大限に利用して快適な内装空間を作り出す。

〔高齢者の視認性への配慮〕

これからの高齢社会において、白内障などによる視覚の変化に対する配慮も避けることの出来ない重要な課題である。案内サインや各種表示は上品で洗練されたイメージばかりを追求するのではなく、視認性に十分配慮し目的地へのスムーズな移動や居場所の明確化を図ることで安全性の確保や心身ストレスの軽減につなげる。

〔素材選定〕

施設内の機能により選定する素材は大きく異なるが、選定した色彩を活かしつつ防汚、防滑、防臭、防炎などメンテナンス性にも配慮した素材を選ぶ。また、コストを意識しエントランスなど施設の顔として人目に触れる部分と、倉庫など隠れた部分との素材選定のバランスに配慮する。

2.2.1 階ごとのテーマカラーについて

1階から7階までのテーマカラーについては、土から芽が出て葉となり花が咲き、空に広がっていくというコンセプトをもとにブラウン、オレンジ、イエローグリーン、グリーン、ピンク、レッドピンク、バイオレット、ブルーの7色を選定し、エレベーター扉と浴室入り口（暖簾）に展開した。

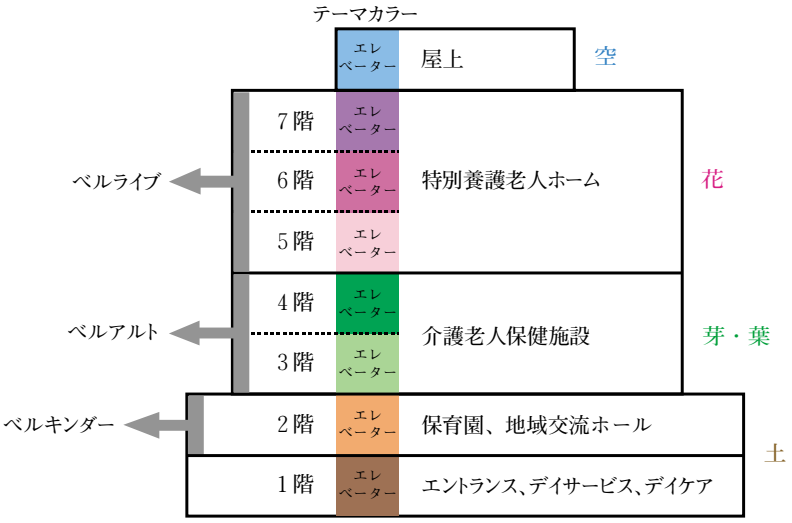

図1　階ごとのテーマカラー

2.2.2 色彩コンセプト

●エントランスホール（1階）

施設の顔とも言える部分であるため、親しみやすく落ち着いた配色となるよう壁のレンガタイルや床の木部を引き立てるオフホワイトを配した。その中で2階の保育園につながるエレベーターを囲む壁には鮮やかなオレンジ色を配しアクセントとすることで、明るい吹き抜けの構造を引き立てた。（**写真4**）

●保育園「ベルキンダー」（2階）

1階からのオレンジ色と同系色のイエロー色を壁面の一部に配し、明るく楽しいイメージとなるようにした。さらに0歳から5歳までの乳児室・保育室、一時保育室、遊戯室それぞれにテーマカラーを設け、部屋の入り口壁にアクセントとして配した。各テーマカラーは0歳オレンジ、1歳イエロー、2歳オレンジ、3歳グリーン、4歳イエロー、5歳ピンク、一時保育室グリーン、遊戯室1ブルー、遊戯室2イエローとした。廊下に立って眺めた時の見え方を重視し、隣り合う部屋や向かい合う部屋のテーマカラーが重ならないように配慮した。その結果、リズム感のある楽しい雰囲気となり、壁や床に採用された木質系素材との効果的な配色が施設全体のポイントとなっている。（**写真5、6**）

写真3　テーマカラー展開例（エレベーター扉、浴室入り口のれん）

写真5　2階「ベルキンダー」保育室

写真4　1階エントランス

写真6　2階「ベルキンダー」テラス遊戯場

●高齢者施設「ベルアルト」（3階～4階）「ベルライブ」（5～7階）

〔構成について〕

まず、リビングを取り囲むようように居室（個室および4床室）があり、それを1つのユニット（**図2**）としている。（居室数および個室・4床室の比率はユニットごとに異なる。）さらに、廊下を挟んで北側と南側に2ユニットずつ配し、各ユニットを集合住宅、廊下を街路と考え、集合住宅（ユニット）の住人が外に出て街路（廊下）で他の集合住宅（ユニット）の住人と交流するという“街”を想定している（**図3**）。ユニット内での小さな交流からユニット外での大きな交流へ、人とのふれあいを通して気持ちの活性化や積極的な社会復帰を目指している。（**図2、3**）

〔ユニットの色彩の考え方〕

各ユニットとも、家庭を離れて生活する高齢者が孤独感を感じず、家庭の雰囲気が感じられ、心が癒されるようなあたたかいイメージに配慮した。また、各階の4つのユニットそれぞれが特色のあるイメージになるため素材を含めた配色を検討し、色彩により自分の居住するユニットが判りやすくなる工夫をした。

3～4階の介護老人保健施設と5～7階の特別養護老人ホームとも素材と色彩の組み合わせを変えることで差別化し、それぞれ個性豊かな内装空間とした。施設内で迷ったりすることを軽減するために、目につきやすい部分にテーマカラーを配することで日常的に強く自分のユニットのイメージが印象に残るよう工夫した。ユニットおよび各部屋の壁面

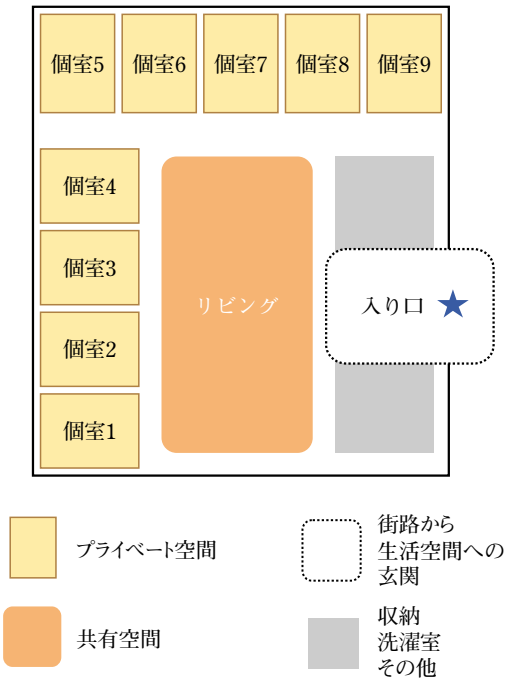

図2　ユニット内配置例（ベルアルト、ユニットA）

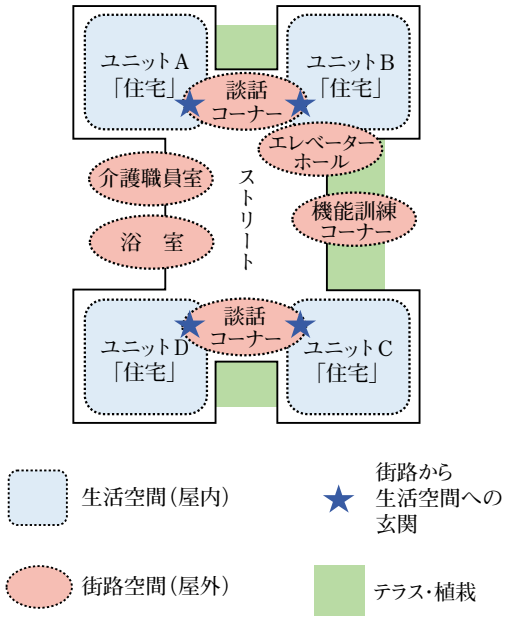

図3　ユニット構成例（ベルアルト）

清潔なブルー　あたたかいオレンジ　さわやかなグリーン　明るいイエロー

写真7　ユニットごとの配色列　3～4階「ベルライブ」

さわやかなクール・カジュアルイメージ

落ち着いたトラディショナルイメージ

優しいナチュラルイメージ

明るいカジュアルイメージ

写真8　ユニットごとの配色列　5～7階「ベルアルト」

については各人の持ち物や家庭で使用していた品々などが映えるように、共通してオフホワイト（一部クリーム色）とした。

各階の色彩コンセプトは以下の通りである。

介護老人保健施設「ベルアルト」（3～4階）

リハビリなどを行った後、自分の家庭や社会に復帰することを考慮し、明るく親しみやすいイメージの配色とした。鮮やかなオレンジ、イエロー、ブルー、グリーンの4色をテーマカラーに設定し、入り口壁とシステムキッチンやソファーに展開することで、それぞれのイメージを強調するアクセントとした。**（写真7）**

特別養護老人ホーム「ベルライブ」（5～7階）

終の棲家となるため、基本的にはおだやかで落ち着いたイメージとしつつ明るさや清潔感が感じられる配色とした。フローリングや腰壁などの木部の素材と色を大胆に変えることで落ち着いたトラディショナルイメージや明るいカジュアルイメージなどを演出した。**（写真8）**

3．おわりに

施設を運営する側であるスタッフなど関係者の中で施設をより良いものにしようという意識が大変高く、それぞれに特徴のある飾り付けを施すなど、そこで生活する高齢者に対するあたたかい心遣いが感じられる。

平成16年2月に竣工し、高齢者と子供たち、その家族やスタッフとの世代間交流や、ユニットケアの特性を活かしたその人らしい生活が出来る複合型福祉施設として利用されている。